

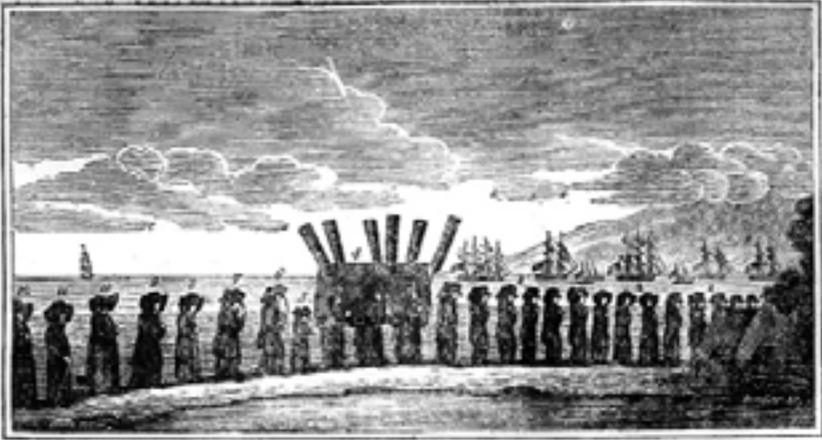
日本ではここまでのことは起こりませんでした。小さな島では日本で起こったことがもつと荒々しい、暴力的とても言いたくなる形で起こっていると感じました。讚美歌を歌うようになると古い歌が廃れてしまふ、そういう歴史が起こったのではないかと思われまふ。そのことを分かりやすく表現するために、私は讚美歌以前と以後とはアジア太平洋の音楽史に活断層のように亀裂が走っている、と言っています。

§ 16 土地の古くからの歌との関係は

—それはまた随分悲劇的なお話ですね。

サモアの人たちはそれは考えていないようです。自分たちの特徴は柔軟性にあると言っていました。外国の文化を受け入れるけれど、それを自分たちに合うように改良していると。結局、私たち日本人と同じことを言っていると思いませんか。日本の場合も、そうは違わないと思います。言語は日本語が残りましたが、音楽は日本音楽が残らず普通の生活ではほぼ西洋音楽になってしまったのではないのでしょうか。今の若い人たちが歌っている歌を明治の人たちがもしも聞くことが出来たら、日本人だとは思わないと思いますよ。

—でも幕末の顛末なんかを見ますと、やはり西洋列強の強力な圧力を前にして変



ハワイ最初のキリスト教徒カメハメハ2世の王妃ケオプラニのキリスト教式の葬式

出典：American Board of Commissioners for Foreign Missions. Paper (Primary Source Media / Cengage Learning)

わらざるを得なかったという面があったという思いは拭えませ
ん。

確かにある面ではそうでしょう。でも宣教師にとっては、例
えば日本に来た時に日本の音楽があまりにも種類の違った音楽
だったのではほとんど理解出来なかったと思います。

理解出来なかっただけならいいのですが、あるいは自分は理
解出来ないのだ、という見方をしてくれば問題は無いのです
が、そうではなくて、それはやはり古い習慣、古い信仰と結び
ついていると思うわけです。古い習慣、古い信仰というのは彼
らからすれば間違っているわけです。邪悪な教えといいますが、
邪教なわけです。悪魔の教えなのです。だからそんな古い歌は
歌ってはいけない、と言ったのです。

—宣教師たちは古い歌を禁止したのですか？

はい、そうです。古くから親しんできた歌がどうして讚美歌
に入れ替わったのかという問題は、この面からも捉える必要が
あります。宣教師たちは任地に行って古い歌や踊りを強制的に
禁止していきます。これは例えばハワイとかミクロネシアで実
際にあつたことです。



王妃ケオプラニの伝統の葬式

出典：American Board of Commissioners for Foreign Missions. Paper (Primary Source Media / Cengage Learning)

どういふ強制があるかと言うと、例えば古い歌や踊りを続けていると、信仰が足りないということで教会の仲間、コミュニティーから追い出します。追放、破門ですね。それ以前には、古い歌や踊りをしているとあなたは地獄に落ちるといふようなことも言ったでしょうね。島中がクリスチャンになっていると、自分が破門されるとその社会で生きていけなくなるので、破門はある時期から強い強制力として働いていきます。

——今、先生はキリスト教の宣教師たちは古い歌舞を禁止していった、そういう事実があるんだと指摘されましたが、もう少しいくつか具体例をあげて下さると分かりやすいと思いますが。

そうですね、例えばこんな例があります。昭和九年にある民族音楽学者がミクロネシアに音楽の調査に出かけました。田辺尚雄という学者です。彼がミクロネシアに行って目の当たりにしたのはどこもかしこも讚美歌だらけなのです。彼は讚美歌によつて在来の音楽がなくなってしまったのではないかととても心配しました。幸いなことにいくつか残っていました。ただしそこには問題があつて、在来の歌舞をやらせるということに現地の人々の間には強い抵抗がありました。

まず長い間キリスト教宣教師が禁止してきましたので、彼らは踊りたがらない。そして昭和九年と言いますとミクロネシアは日本の委任統治領だったので、日本の官憲が宣教師の政策をそのまま受け継いで在来の歌や踊りを禁止するということが続けていました。ですから田辺が在来の音楽を望んでもなかなかやってもらえないという状況がありました。

さらに田辺と同じ船に女性宣教師が乗り合わせていました。彼女はクサイで長いこと宣教活動をした当の本人でした。彼女は身をもって古い歌や踊りを禁止したという逸話が残っています。ある時軍隊から島民たちを踊らせろと銃を向けられたが、それでも彼女は頑として聞き入れなかった、そういう筋金入りの宣教師です。彼女が船の中で今度日本の学者が島に行つて、長い間禁止していた踊りを踊らせて記録するという話を聞いてカンカンに怒ります。でも田辺はいろんな懐柔策を使つて、無事なんとか古い歌舞の録音にこぎつけます。

その詳しい顛末は残念ながら今お話する時間がありませんが、この例に見られるように、キリスト教宣教師たちははつきりと土着の歌舞を禁止していききました。その代わりに自分たちの讚美歌を歌うように仕向けていきました。仕向ける、という言葉が適切かどうか分かりませんが、簡単に言うところいうことだったのでないでしょうか。

今、ミクロネシアの例をお話しましたが、ハワイでも全く同じことが行われま

した。タヒチでもマルケサスでも、トンガでもクックでも同じです。ですからキリスト教の布教によって普及していった讚美歌は在来の歌舞を駆逐していった、それに置き換わる形でアジア太平洋地域に広がっていった、そういう面を持っています。

——日本の場合は宣教師が日本の古くからの歌舞を禁止したという話は聞きませんか。

日本でそれをして、内政干渉になるでしょう。小さな島とは違ってそれなりに強い国でしたし、人口も多かったですしね。近代国家がはじまったばかりとはいえ、それなりの国力がありましたので、宣教師が直接日本の歌舞を禁止するという措置はとれなかったと思います。その代わりと言っていいのでしょうか、日本ではみずから禁止していきます。詳しくお話は出来ませんが、南の島々で宣教師が歌舞を禁止した理由は、彼らの歌舞が宣教師からすれば許しがたい男女間のみだらな行為と結びついていたからです。

なぜこんな話をするかと言いますと、実は日本でも同じようなことが起こりました。明治三、四年あたりに、県レベルで盆踊りを禁止するという条例がたくさん出てきます。上からの命令で盆踊りを止めさせました。盆踊りは今とは違っていわゆる未婚の若い男女が夜自由に交際してもいいという習慣と結びついていたのです。万葉の時代からある歌垣のような風習ですね。男女の自由な交際を誘発するような盆踊りは、日本が近代国家になるにはまずいということで、この場合は自主的に上から禁止しました。

禁止した主体が宣教師か行政府かという違いはありますが、日本も南太平洋の島々やミクロネシアの島々と同じ歴史を持っている、共通点がある、と私は見ています。

§17 唱歌はなぜ他所では生まれなかったのか

——なるほど、確かにこのようにお話をうかがってききますと、先生が最初におっしゃったように唱歌が単なる古い歌とか学校である程度強制的に習う歌だとか、老人ホームでお年寄りたちが懐かしく思う歌、聞いて喜ぶ歌、というだけではない歴史的に深い背景があるということがよく分かりました。もう一度ここで先生のお話を私なりに簡単に整理してみますと、十八世紀後半からイギリスとかアメリカでキリスト教の海外伝道運動が起こり、そして私たちの関係でいうと、アジア太平洋地域にキリスト教が布教された。布教に伴って、その地域に讃美歌が普及していった。そのことは讃美歌が普及していったというだけではなく、宣教師たちにより、あるいは自主的に古い伝統的な音楽を禁止して、演奏をやめさせて、そのかわりに讃美歌を演奏させる、そういう歴史があったわけですね。

で、先生が最初におっしゃっていた面白いお話、唱歌が日本だけで誕生したのはなぜなのか、もしかしたら唱歌の誕生は奇跡だったのではないだろうか、ということに繋がってくると思うのですが、どうして他所の地域では、日本で起こったよう